

年度	2026		
授業コード・授業科目	0010030251	人工知能技術と社会	
担当教員	林 浩一、鈴木 大助、宮田 真宏		
開講期・曜日時限・教室	2026年度2学期、2026年度3学期、2026年度4学期	不定期開講	未使用
開講キャンパス	オンライン		
開講学科	2021～2026年度 武蔵野大学 文学部 日本文学文化学科 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 グローバル学部 GC学科 日本語母語 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 グローバル学部 GC学科 留学生 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 グローバル学部 JC学科 日本語母語 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 グローバル学部 JC学科 留学生 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 グローバル学部 GB学科 日本語母語 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 グローバル学部 GB学科 留学生 1年／2021～2026年度 武蔵野大学 グローバル学部 GB学科 留学生 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 法学部 法律学科 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 法学部 政治学科 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 経済学部 経済学科 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 経営学部 経営学科 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 経営学部 会計・ファイナンス学科 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 EMC学部 EMC学科 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 データサイエンス学部 データサイエンス学科 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 人間科学部 人間科学科 通常 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 人間科学部 人間科学科 精神保健福祉士 2年／2022～2026年度 武蔵野大学 人間科学部 人間科学科 通常(精保混在) 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 人間科学部 社会福祉学科 2年／2024～2026年度 武蔵野大学 ウェルビーイング 学部 ウェルビーイング 学科 通常 2年／2025年度 武蔵野大学 ウェルビーイング 学部 ウェルビーイング 学科 2年次編入 2年／2023～2026年度 武蔵野大学 工学部 サステナビリティ学科 2年／2021～2022年度 武蔵野大学 工学部 環境システム学科 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 工学部 数理工学科 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 工学部 建築デザイン学科 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 教育学部 教育学科 学校教育（初等） 2年／2021年度 武蔵野大学 教育学部 教育学科 学校教育（理科） 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 教育学部 幼児教育学科 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 薬学部 薬学科 (6年制) 2年／2021～2026年度 武蔵野大学 看護学部 看護学科 2年		
単位数	1.0単位		
授業の方法	演習		
授業の実施形態	オンライン（一部対面。オンライン実施回が半数超）／Online (partially Face-to-Face: over 50% of the classes are Online)		
使用言語	日本語		
科目番号(ナンバリング)	SIC 206		

授業概要	【概要】 武蔵野大学では情報技術(IT)の学修を通じて、変化し続ける社会の中で、様々な困難な課題を解決し、より良い未来を作り出すことのできる人材の育成を目指している。この科目では、本コースの修了後を視野に入れ、人工知能を始めとする高度な情報技術の活用に必要な様々な手法を総合的に学ぶ。 この科目は、副専攻AIエキスパートコース専修科目群の最初に位置づけられる。AIの活用力を身に付けるという観点から、専門性の高い専修科目での学修のねらいを理解し、本コースの最終科目である人工知能実践プロジェクトに取り組むための準備を行い、さらにその先にある本コースの終了後のキャリアビジョンを醸成することを目的とする。人工知能実践プロジェクトの準備の一環として、テーマの説明会を授業時間内に実施する。
	【具体的な内容】 最初に、生成AIをはじめとする人工知能技術についての最新の動向を知り、将来のあり方を展望するために、最新のAIツールの利用とAIメディアを用いた事例調査の相互紹介を行う。議論と考察を踏まえて、Society5.0と呼ばれるこれからの社会についての知見を深める。 続いて、課題で作成した資料に対する相互レビューの繰り返しによる資料品質の向上を体験することで、AIを活用するために不可欠な利用者からの視点を身に付けるとともに、説得力のある提案資料を作成するスキルのレベルアップを図る。 さらに、人工知能技術の最前線で活躍する第一人者による講演に参加・視聴することで、人工知能やデータを活用した実際の仕事について理解を深める。講演者との質疑応答を通じて自分自身の将来のキャリアイメージを具体化する。 最後に、最終科目である人工知能実践プロジェクトで作成する成果物、ポスターの組み立て方や、発表方法であるフラッシュトークなどについての基本を学ぶことで効果的な訴求力を身に付ける。 前半は集中講義をを通じて授業の狙いと進め方を理解し、後半は実際に実践を繰り返すことでスキルの定着を図る。 [キーワード] AI・データサイエンス実践（演習や課題解決型学習）＜データ・AI活用企画・実践・評価＞ ※夏期集中講義の4時限分を対面授業とする。3学期と4学期に行われる後半授業は、同時双方向型のオンライン授業とする。なお、対面授業の教室は有明、武蔵野キャンパスの両方に用意し、どちらに出席しても同一の授業が受けられるようにする。 ※AI副専攻の科目である「人工知能技術と社会」と「データサイエンス活用1」および「データサイエンス活用2」は、実施する週を違えて同じ時間帯に開講する。具体的には、「人工知能技術と社会」は、9月の初旬に集中講義を開講したあと、3学期の第1週、第4週、第7週の月曜日の5時限目と6時限目に開講し、そして4学期の第4週と第7週の月曜日の5時限目と6時限目に開講する。なお、これら以外の週は「データサイエンス活用1」や「データサイエンス活用2」を開講する。 ※この科目は、武蔵野大学のAI副専攻「AI活用エキスパートコース」を構成する科目群の一つで、専修科目に位置づけられ、コースの修了認定のために取得が必要な必修科目となっている。なお、この科目の履修はAI副専攻コースに参画していることが前提となる。詳しくは以下のコース説明を参照すること。 https://risyuyouran.musashino-u.ac.jp/faculty/curriculum-faculty/ai/

知識・専門性の到達目標	人工知能技術が現実社会にどのように活かされ、今後どのような発展をもたらしていけるものかについての知識を習得する。【専門性】
関心・態度・人格の到達目標	人工知能技術によって変革される社会において、人々の考えや行動様式がどのように変わっていくのかについて展望できる。【自己認識力・他者理解力】
思考力・判断力の到達目標	人工知能が可能にすることと、人々の思いを踏まえて、社会の健全な発展のためにどのように活用するべきかを構想できる。【情報分析力・論理的思考力・判断力】
交感力・発信力の到達目標	人工知能の発展が社会の健全な発展に寄与するために、何をすべきかについて、他者とアイデアを議論し高めていくことができる。【表現力】
「響学スパイラル」 取り組み方法	武蔵野大学「響学スパイラル」に基づき、以下の内容で授業を実施する。 【響学】解がひとつではないテーマに対して、多種多様な視点や発見があることを、毎回の授業のグループディスカッションやプレゼン、相互評価を通じて学ぶ。 【問う】テーマに対して、自分自身で探索し、課題が何かについて問いを立てる。 【考動する】ツールを使った分析や調査を行い、課題について深く考察、議論する。 【カタチにする】課題についての考察を踏まえ解決のための施策を考案し、提案という形で表現する。 【見つめ直す】提案をプレゼンし、相互にフィードバックする中で、提案を見つめ直し、より良い提案へと高める。

授業における「アクティブな知」の要素		
授業手法		対象
A：課題解決型学習（PBL）企業、自治体等との連携あり		－
B：課題解決型学習（PBL）連携なし		－
C：反転授業（知識習得を授業外で行い、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		○
D：討議（ディスカッション、ディベート等）		○
E：グループワーク		○
F：発表（プレゼンテーション）		○
G：実習、フィールドワーク		－
H：双方向授業（ICT活用なし：対話型、リアクションペーパー等）		－
I：双方向授業（ICT活用あり：クリッカー、タブレット、スマートフォン等）		○
J：講義のみ		－
K：その他	PCを活用した演習	○

授業における「ICTの活用」について		
活用形態		対象
A：ノートPC必携		○
B：講義資料や授業教材のオンライン配信		○
C：レポート課題等のオンライン提出		○
D：質問やレポート課題等へのフィードバックにおける学修管理システムの活用		○
E：オンラインメディアの活用		○
F：Zoom、Google Meet等のミーティングツールの活用		○
G：その他		－

予習（事前学修）			
各授業	30	分	- 指示された事前課題や準備調査等を行い、指定の締切日まで提出する。 - 集中講義で連続する回の予習時間は、後半の回に振り替えるものとする。
復習（事後学修）			
各授業	20	分	- 各回の授業で学んだ内容について、リフレクションを提出。 - 指示された課題を指定の締切日までに実施し提出する。

成績評価		
評価項目	割合	評価項目の詳細内容
課題提出（レポート）	80%	

小テスト		0%	
試験		0%	
学習・学外学修活動		0%	
その他		20%	・ 任意提出の加点課題への取り組み、標準課題・最終課題への特別加点、グループワーク貢献への加点等
成績評価備考	課題提出：・ 各週の内容を理解するための標準課題とリフレクション ・ 学修した内容を総合的に応用する最終成果物の作成と発表		

授業計画	
授業回	内容
第1回	集中講義(対面)【学習に取り組む準備をする】 ・ 事前課題として各自が関心を持てるAI活用を調べておく ・ 授業の進め方、課題と採点方法、グループ分の実施など
第2回	集中講義(対面)【世界のAI 最前線を知る】 ・ 世界を変えるAIの最前線について講義(ゲスト講演を予定) ・ AIによる世の中の変化についてグループディスカッション
第3回	集中講義(対面)【AIを使ってアイデアを実現する】 ・ AIを利用したツール作成の講義 ・ ツール作成の実践とその経験からのグループディスカッション
第4回	集中講義(対面)【自分の将来とAIについて考える】 ・ AIで変わる仕事のあり方について講義 ・ 企業が取り組むべき活動についてのグループディスカッション
第5回	後半授業(1日目前半)【求められているAI活用力を知る】 ・ 企業が求める学生の資質について知る ・ 自分の将来像を示すペルソナと 自己PRの作成
第6回	後半授業(1日目後半)【自己PRについての相互レビュー】 ・ 各自の自己PR資料を相互に紹介し、相互レビューを行う
第7回	後半授業(2日目前半)【AIの社会実装について知る】 ・ AI技術を社会に役立つ形にするために必要な知識について講義
第8回	後半授業(2日目後半)【AIの社会実装の実際を知る】 ・ AIを用いた事業を行っている企業の事例紹介 (ゲスト講演を予定) ・ 事例についてのリフレクションの共有とディスカッション
第9回	後半授業(3日目前半)【提言ポスター作成方法を知る】 ・ 提言ポスターの作成と資料品質についての講義 ・ 提言ポスターの作成
第10回	後半授業(3日目後半)【提言ポスターについての相互レビュー】 ・ 提言ポスターを相互に紹介し、相互レビューを行う
第11回	後半授業(4日目前半)【AIによるDXについて知る】 ・ AIを用いた企業のDX活動についての講義
第12回	後半授業(4日目後半)【AIによるDXの実際を知る】 ・ AIを用いた企業のDX活動の事例紹介 (ゲスト講演を予定) ・ 事例についてのリフレクションの共有とディスカッション
第13回	後半授業(5日目前半)【提言ポスター発表会】 ・ 小グループでの提言ポスターを発表するフラッシュトーク発表会を実施
第14回	後半授業(5日目後半)【人工知能実践プロジェクト履修準備】 ・ グループ選抜された発表者による全体向けポスター発表 ・ 人工知能実践プロジェクトのテーマ説明会

留意事項	① 本科目の受講は次年度以降の副専攻(AI活用エキスパートコース)の専修科目を受講する前提となる。履修を解除するとコースから離脱することになるので、修了を目指す学生は注意すること。 ② 初回の同時双方向授業の受講およびその準備に必要な情報は、MUSCATの「講義連絡」で1週間前までに告知するので確認すること。
------	--

- ③ 学修管理システムおよびミーティングツールとしてTeamsを利用するため、利用方法を確認しておくこと。
- ④ 受講と演習実施はPCの利用を前提とする。スマートフォンやタブレットのみの受講は不可。演習で使用するツールとしては、プレゼンテーションツール(PowerPoint)、Webブラウザ(Chrome)等がある。これらのツールは、授業までに使えるようにインストールしておくこと。
- ⑤ 本科目では、同時双方向授業への出席、グループワーク参加、必須課題の期限内提出が揃ったことで出席と見なす。いずれかが欠けている場合は欠席として扱われる。正当な理由なしに3週以上欠席した場合、成績評価は「X(出席不良)」となる。
- ⑥ 成績評価に関して詳しくは以下の説明を参照すること。
<https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/learning/results.html>

教科書（購入必要）	
参考図書（任意購入）	
その他（配付教材等により購入不要）1	
その他（配付教材等により購入不要）2	
その他（配付教材等により購入不要）3	
その他（配付教材等により購入不要）4	
その他（配付教材等により購入不要）5	
参考URL	
1.	
webサイト名	情報副専攻AIエキスパートコース
URL	https://www.musashino-u.ac.jp/guide/facility/MUSIC_center/submajor_aiexpert.html
参考URLに関する履修学生への連絡事項	
2.	
webサイト名	AINOW (AIメディア)
URL	https://ainow.ai/
参考URLに関する履修学生への連絡事項	
3.	
webサイト名	一気に即戦力！学生と社会人新人のためのロジカルシンキング&ライティング講座
URL	https://www.udemy.com/course/ikkini-logical/
参考URLに関する履修学生への連絡事項	有料のサイトだが武蔵野大学生には、不定期に無料のクーポンを配布している。詳しくは、担当教員に相談すること。
4.	
webサイト名	
URL	
参考URLに関する履修学生への連絡事項	
5.	
webサイト名	
URL	
参考URLに関する履修学生への連絡事項	
実務経験のある教員等による授業科目(実践的教育を行う授業科目)	
実践的教育を行う授業科目の種別	対象

a. 実務経験を有する担当教員による実践的な授業科目	○
担当教員の実務経験(経歴・資格等)	
林浩一 2002年～2015年 ウルシステムズ株式会社 ITコンサルティング事業本部長。 2009年～2019年 ピースミール・テクノロジー株式会社代表取締役社長。	
授業内容との関連性	
ITコンサルティング会社(上記2社)にて、様々な企業に対する事業提案とコンサルティングを実施。	
b. 企業や自治体等、学外から実務経験を有する講師を招いて行う授業科目	○
学外講師の経歴・資格等	
ゲスト講演をAIを活用する事業を行っている事業責任者数名に行ってもらう予定。具体的な講演者は集中講義開始までに確定する。	
授業内容との関連性	
AI活用を行う仕事の実際について理解する	
c. 企業や自治体等との連携により、学外でのインターンシップや実習、研修を行う授業	○
実習先・実習の目的	
ゲスト講演のひとつは、ITコンサルティング企業であるウルシステムズ株式会社のAI事業責任者に行ってもらう予定。講演者に加え若手コンサルタント数名によるパネルを行い、業務内容の紹介と質疑応答を通じてキャリアイメージ醸成の一助とする。	
備考	